

文化講演のお知らせ

2022年11月 星和会代表 田仲一成 (併1回)
佐野清廣 (全3回)

講師 富樫利男 (旧中40回)
演題 わが国のエネルギー問題

講師略歴



1926年旧朝日村早稲田に生まれる。1938年旧制村上
中学入学。1942年陸軍予科士官学校入学。

1945年陸軍航空士官学校卒業。北朝鮮第11教育飛行隊
に赴任。終戦。旧ソ連抑留 (エラブカ収容所)。

1947年末 帰国、復員。

1950年東京大学工学部土木工学科 (旧制) 入学。1953年同卒業。
中部電力 (株) 入社: 建設技術者として水力発電所 (井川、奥泉、川口)、
原子力発電所 (東海第一、浜岡、もんじゅ) の建設を担当。

1981年退職。

1983年 (株) ユニテックコンサルタント設立、代表取締役、今日に
至る。

表彰: 1954年第6回科学技術功労者表彰 (科学技術庁長官賞)

講話の時期 令和4年11月26日 (土) 11時30分から12時45分
場所 (公益財団法人) 偕行社 5階 会議室 (地図参照)

聴講無料

日本へのエネルギー問題
富樫利男 (旧中四十四回)

エネルギー問題は過去の日本でも諸
外国でも一般に国の盛衰に関わる基本
問題でした。

日本の場合に特に忘れ得ないのは、
昭和十六年末の太平洋戦争の宣戦布告
でありましょう。

明治維新による、富国・強兵の国策
の結果大きい成果を得て、日本は一躍
世界の強国となりましたが、太平洋戦
争の宣戦布告は、石油の不足というエ
ネルギー問題のため、戦争継続が困難
になり、石油輸出を止めた米国等諸外
国へ勝算のない宣戦布告でありました。
終戦前は軍人であり旧ソ連抑留の経
験をされましたので、上記の件は忘れ得
ません。

然し、現在の日本のエネルギー政策
にも重要な問題が含まれており、座視
できません。

ここでは私はその概要と対策の骨子
を述べさせていたただきたいと思ひます。

更に、今年十一月の末の**土**曜日、
村上高校出身で六十才以上の有志の
方々の会、星和会の総会・文化講演会
が開催されますが、日本のエネルギー
問題で私が講演を要請されました。
エネルギーの問題を良く理解するに
はある程度の基礎知識が必要で、私
は電力会社職中に原子力発電所の建

設に永年従事し、現在も東京のシニア世代の原子力専門家集団に属し、集団として近年は自民党の有力政治家に提言する等の実績を残しました。星和会での文化講演会では、この経験をもとに、受講者に解り易いように資料を準備して講演しますので気楽にご出席下されば幸いです。日本のエネルギー問題は解決のためには重要な問題点は何かについて私の考え方を以下のよう整理してご参考用に提供させていただきます。

一、政府の現在のエネルギー基本計画には、二〇三〇年と二〇五〇年の電源ミックスとして、再生エネルギーや原子力発電等の目標について述べられていますが現実には実行は困難と各所からも批判されています。次期エネルギー基本計画では、実現可能な方向に改訂されるべきです。

二、太陽光発電、風力発電等変動電源を政府は今後の日本のエネルギー政策で高く評価し重要電源として扱っていただきますが、このような変動電源には大きな限界がある事に充分注意すべきで、過大な期待は避けるべきです。

三、原子力発電は、世界の先進国は一
一時足踏みの中、途上国では伸長が著しい傾向がありましたが、現在は傾向が大きく変わり、欧米諸国ではカーボンニュートラルを達成するに

等や不可欠な重要は、電源であり、新増設は速
を政に稼働、リプルス（新増設）は速
原抱え、日本は安定供給に大きな問題
す、日本は安定供給に大きな問題
か、なる状況でも安定供給が必
い、家のエネルギ政策として、
国民の暮らしや経済活動を支
富を費やし、石油燃料を海外
国輸入に頼り、日本は、
給率が小さい、日本は、
資源の乏しい日本は、
は原子力発電に至り、日本は

偕行社（VORT（ポルト）四谷坂町）案内図



- 都営地下鉄新宿線「曙橋駅」から靖国通り沿いにJR線市ヶ谷駅方向に徒歩約5分
- JR線「市ヶ谷駅」から靖国通り沿いに曙橋駅方向に徒歩約10分
- JR線「四ツ谷駅」から外堀通り沿いに防衛省正門を経由して靖国通り沿いに曙橋駅方向に徒歩約10分
- 電話：03-6380-0623（新番号）
- FAX：03-6380-0624（ 〃 ）
- メールアドレス：変更予定（後日連絡）

VORT四谷坂町



全 景



入 口